

IBにおける学習評価について

児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ

2018年4月17日（火）

玉川学園 渡瀬 恵一

新学習指導要領における評価の考え方

- 各教科等の目標を資質・能力の3つの柱で整理するということを踏まえ、目標に準拠した評価を推進するために「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点により観点別評価を行う。
- 資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動を評価の対象とし、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。
- 教師による評価とともに、児童による学習活動としての相互評価や自己評価などは学習意欲の向上にもつながることから重視する必要がある。

IB評価の原則

- 評価は計画と指導、学習と一体化したものであること。
- 評価システムと教科の実践が、児童生徒と保護者に明確にされていること。
- 総括的評価と形成的評価のバランスがとれていること。
- 児童生徒間で評価し合う活動、および自己評価の機会があること。
- 児童生徒が自分自身の学習を振り返る機会が設けられていること。
- 新たな学習を始める前に、児童生徒の現在の知識や経験が評価されていること。
- 今後の学習の土台となるようなフィードバックがなされていること。
- 保護者への報告が有意義なものであること。
- 評価データは、指導と学習および児童生徒個人のニーズに関する情報提供のために分析されること。
- 評価によりカリキュラムの効果が測られること。

K-12の段階ごとの評価

- **PYP** (3歳~12歳) では、すべての評価が学校内の教師が評価する内部評価(internal assessment)である。
 - PYPにおいては、基本的な**知識**と**スキル**の習得、**概念的**理解の発達、ポジティブな**姿勢**の提示、責任をもった**行動**を取れることのすべてのバランスが保たれていることを目指します。
- **MYP** (11歳~16歳) では、IBOが示した評価規準や基準に基づいて学校内で評価を行う一方、その内部評価を部分的に学校外で認証する仕組みをとりいれている。
- **DP** (16歳~19歳) では、IBOが示した評価規準や基準に基づいた内部評価とIBOによる外部評価の併用により評価が行われる。DP最終試験の評価は完全に外部評価(external assessment)である。

総括的評価と形成的評価

IBの評価は、「指導」と「学習」を支援し、奨励するものでなければならない。IBの学習評価には次の2種類がある。

- 総括的評価 (summative assessment) : 通常、コースまたは単元の終了時において、児童生徒の達成度を測るもの。
- 形成的評価 (formative assessment) : 児童生徒の学習ニーズを特定し、学習プロセスそのものの一部をなすもの。(直接点数に表すことはないが、結果的に総括的評価に影響を与える。)

IBの学習指導では、総括的評価、形成的評価のためにさまざまな学習課題が課される。

MYPの評価 / 全学年、教科ごとに以下の規準で評価する

	A	B	C	D
言語と文学	分析	構成	創作	言語の使用
言語の習得	傾聴内容を理解する	精読内容を理解する	コミュニケーション	言語の使用
個人と社会	知識と理解	調査探究	コミュニケーション	クリティカルシンキング 批判的思考
理科	知識と理解	探究とデザイン	手法と評価	科学的影響の振り返り
数学	知識と理解	パターンの探究	コミュニケーション	実生活への応用
芸術	知識と理解	技能の発展	創造的思考	鑑賞
保健体育	知識と理解	活動の計画	応用と実践	活動の振り返りと改善
デザイン	探究と分析	アイデアの発展	課題解決	評価
MYP プロジェクト	調査探究	計画	行動	振り返り
学際的単元	教科の基礎	統合	コミュニケーション	振り返り

(参考：「MYP:原則から実践へ」 IBO P.93)

MYPの評価 / 全学年、教科ごとに以下の規準で評価する

	A	B	C	D
言語と文学	分析	構成	創作	言語の使用
言語の習得	傾聴内容を理解する	精読内容を理解する	コミュニケーション	言語の使用
個人と社会	知識と理解	調査探究	コミュニケーション	クリティカルシンキング 批判的思考
理科	知識と理解	探究とデザイン	手法と評価	科学的影響の振り返り
数学	知識と理解	パターンの探究	コミュニケーション	実生活への応用
芸術	知識と理解	技能の発展	創造的思考	鑑賞
保健体育	知識と理解	活動の計画	応用と実践	活動の振り返りと改善
デザイン	探究と分析	アイデアの発展	課題解決	評価
MYP プロジェクト	調査探究	計画	行動	振り返り
学際的単元	教科の基礎	統合	コミュニケーション	振り返り

(参考：「MYP:原則から実践へ」 IBO P.93)

言語と文学（日本語A 10年生） 評価規準

◆A 分析

- I. テクストの内容文脈、言語、構造、技法、スタイルと、複数のテキスト間の関係性を分析する。
- II. 作者の選択が受け手に与える影響について分析する。
- III. 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
- IV. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴を関連づけることで、類似点と相違点を評価する。

◆B 整理する（構成）

- I. 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
- II. 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
- III. 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。

◆C 文章をつくる（創作）

- I. 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し批判的に振り返りながら洞察、想像力、感受性を示すテキストを探索する。
- II. 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイルを選択する。
- III. アイディアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。

◆D 言語を使う

- I. 適切で多彩な語彙、構文、表現形式を使用する。
- II. 適切な言語使用域とスタイルで書き、話す。
- III. 正しい文法、接続法、句読法を用いる。
- IV. 正確に綴り、書き、発音する。
- V. 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

（「言語と文学 指導の手びき」
IBO P.45）

Year 10 Japanese A 総括評価対象課題

Unit		アセスメント課題	課題の分量	評価観点/項目			
1	1	羅生門 プレゼンテーション	15分	A3			D5
	2	羅生門 コメントリー	800～1000字	A4	B2	C2,3	
2	1	絞首刑 口述コメントリー	1～2分	A2			D2
	2	創作散文 および ラショナルシート	800～1200字		B3	C1	D1,3
	3	期末試験		A1	B1		D4
3	1	モモ G発表	15分		B2		D5
	2	モモ エッセイ	字数制限なし	A3,4		C1,2	
	3	ジュンパ・ラヒリ 口述コメントリー	1～2分		B3		D1
4	1	言語事項テスト	50題				D4
	2	こころ プレゼンテーション	25分	A2	B1		D2
	3	期末試験		A1		C3	D3

これ以外にも学習目標を達成するためにさまざまな課題が出され、形成的評価がなされる。

評価課題のバリエーション

- 観察
- 論文
- 筆記試験
- プレゼンテーション
- オープンエンドの課題、探究
- 作品の創造
- 発表、パフォーマンス
- プロセスジャーナル（記録日誌）
- ポートフォリオ 等

MYP

評価対象 課題例

総括的評価に関わるこのような課題が、年間の評価計画に従って複数出される。

総括的評価の対象にはならないが、学習目標に迫るためのそれ以外の課題が複数出され、形成的評価が行われる。

この形成的評価の積み重ねが、総括的評価対象の学習課題への取り組みの結果を高めることにつながる。

Unit Title & Global Context:
Key and Related Concepts:

異ジャンルにおける同素材の描写
創造性/観点

Inquiry questions:

Factual—ファンタジー作品等における設定は何を考慮して考えられているのか。

ファンタジー作品はほかのジャンルの作品と何が違うのか。

物語や小説における個人的な物語の事実が読者に与える影響は何か。

Conceptual—なぜ物語を語るのか、物語を通して何が表現できるのか。

設定があいまいな状況は主題にどのような影響を与えるのか。

Debatable—人はなぜ創作をするのか。世の中にファンタジー作品が存在する意味は何か。

提出期限: 10月20日、23日

課題名: 論述課題

課題の種類: エッセイ

長さ(文字数、時間等): エッセイ=字数制限なし

評価規準: Criterion A iii、iv、C i、ii

※評価規準の詳細: ルーブリックも参照

教材: ミヒャエル・エンデ『モモ』

評価の詳細:

A iii 例や説明を用いて意見やアイデアを正当化する。

iv ジャンルや文章を通して、もしくはその間で特徴の類似点や相違点について評価する。

C i 個人的に従事している創造の過程で生じる新たな視点やアイデアについて探求し、熟考しながら思想やイマジネーション、感受性をあらかず文章を作成する。

ii 言語学的、リテラシー的、視覚的に文体を選択しながら、読み手聞き手への影響にも気づいていることを示す。

総括的評価に関わる課題が出されるたびに、このような課題の手引きが配られる。

ルーブリック

言語と文学

A：分析 i～iv の評価規準と
評価基準（0～8点）の
ルーブリック

課題とともに、関係する評価
のルーブリックを生徒に提示
し、それぞれの評価規準に対
する評価基準を確認する。

MYP : Language and Literature – Year 5 Rubric

Criterion (A): 分析する

最高 8

5年次の最後に、学生は以下のことができる。

1. 文章の内容や背景、言語、構造、技法、スタイル、および、文章間の関係について分析する。
2. 作者の選択の読み手・聞き手への影響について分析する。
3. 例や説明、語彙を駆使して、意見やアイデアを正当化する。
4. ジャンルや文章を通して、もしくはその間で特徴の類似点や相違点について評価する。

	0	1-2	3-4	5-6	7-8
	The student:				
Strand 1		文章の内容や背景、言語、構造、技法、スタイル、そして文章間の関係について限定的に分析する。	文章の内容や背景、言語、構造、技法、スタイル、そして文章間の関係について十分に分析する。	文章の内容や背景、言語、構造、技法、スタイル、そして文章間の関係について完全に分析する。	文章の内容や背景、言語、構造、技法、スタイル、そして文章間の関係について明敏に分析する。
Strand 2		作者の選択による聞き手・読み手への影響について限定的に分析する。	作者の選択による聞き手・読み手への影響について十分に分析する。	作者の選択による聞き手・読み手への影響について完全に分析する。	作者の選択による聞き手・読み手への影響について明敏に分析する。
Strand 3		例や説明を用いて意見やアイデアを稀に正当化する；語彙を殆どもしくは全く使わない。	例や説明をいくらか用いて意見やアイデアを正当化するが、一貫性はない場合もある；語彙をいくつか使用する。	例や説明を用いて意見やアイデアを十分に正当化する；語彙を正確に使用する	多くの例や完璧な説明を用いて意見やアイデアを詳細まで正当化する；語彙を正確に使用する。
Strand 4		ジャンルや文章を通して、もしくはその中で特徴を最低限繋げてみて、類似点や相違点について稀に評価する。	ジャンルや文章を通して、もしくはその中で特徴を十分に繋げてみて、類似点や相違点についていくらか評価する。	ジャンルや文章を通して、もしくはその中で特徴を適切に繋げてみて、類似点や相違点について評価する。	ジャンルや文章を通して、もしくはその中で特徴を広範囲で繋げてみて、明敏に比較し対比する

9年 言語と文学 / Japanese A 成績例

単元・課題 Criteria・基準	メディア社会 小論文	メディア社会 ポスターラショナル	戦争と文学 創作詩とラショナル	期末試験 読解、論述、漢字	個人と文学 高瀬舟グループ発表	個人と文学 高瀬舟コメンタリー	記述課題 語事項テスト	古典文学と創作 我輩は猫であるグループ発表	期末試験 読解、論述、漢字	総合
A 分析 0-8		4	5		5	6		6	7	6
B 構成 0-8	6		7	5	5			6	8	7
C 作文 0-8	6	6			5	5				5
D 言語の使用 0-8	6	7	4	5	5		3		6	5
									Total	23

観点別の総合評価は、対象課題の評価の平均ではない。
 生徒の自己評価、相互評価やそれまでの形成的評価を参考にしながら、教師が専門家としての判断で成績を決定する。

Grade	Boundary
1	1 - 5
2	6 - 9
3	10 - 14
4	15 - 18
5	19 - 23
6	24 - 27
7	28 - 32

A,B,C,Dの4観点の評価の合計点数 = 23

これは7段階の「5」
 これがIBとしての評定。

Subject / 科目	Teacher / 担当者	IB Grade	Tamagawa Grade	Absences	Classes
Japanese A / 国語		5	4	0	
Individuals and Societies/ 個人と社会		5	4	0	
Mathematics / 数学		5	4	0	
Sciences / 理科		4	3	0	
English Language Acquisition / 英語		6	5	0	
Physical and Health Education / 保健体育		6	5	0	
Arts / 美術		5	4	0	
Music / 音楽		6	5	0	
Design / 技術・家庭		6	5	0	

一条校としての5段階評価への換算

七段階評価	1	2	3	4	5	6	7
五段階評価	1	2	3	4	5		

Criterion D: Writing

6

The student:

1-2	3-4	5-6	7-8
makes a limited attempt to express	expresses some	expresses clearly a range of	effectively expresses a wide range of
• Ideas and opinions in familiar and some unfamiliar situations.			
1-2	3-4	5-6	7-8
displays communication that is incoherent; ideas are generally irrelevant and repetitive; opinions are unsupported.	displays communication that is sometimes incoherent; ideas are sometimes irrelevant or repetitive; opinions are often unsupported.	displays more complex ideas that are sometimes not clear but are generally relevant; opinions are sometimes justified.	displays ideas that are relevant and opinions are supported by examples and illustrations.
1-2	3-4	5-6	7-8
has difficulty organizing information and ideas logically; uses a limited range of basic cohesive devices; there is little or no structure, making the ideas difficult to follow.	organizes some information and ideas logically; uses a range of basic cohesive devices; there is a reasonable amount of structure.	organizes information and ideas logically; uses a range of basic cohesive devices; there is an appropriate structure.	organizes information and ideas logically; uses a range of basic cohesive devices; there is a logical structure, and cohesive devices add clarity and coherence to the message.
1-2	3-4	5-6	7-8
has difficulty using vocabulary, grammatical structures and conventions; frequent errors interfere with communication.	uses a range of vocabulary, grammatical structures and conventions; some errors and inappropriate word choice interfere with communication.	makes good use of a range of vocabulary, grammatical structures and conventions, generally accurately; errors do not interfere with communication.	makes excellent use of a range of vocabulary, grammatical structures and conventions and conventions, accurately; occasional errors do not interfere with communication.
1-2	3-4	5-6	7-8
writes with little sense of audience or purpose.	writes with some evidence of a sense of audience and purpose.	writes with a sense of audience and purpose.	clearly writes with a sense of audience and purpose.

ATL reflection questions:

Which areas do you feel you completed best? Which areas would you like to improve?

I feel completed best about understanding the answer, but I want to improve the grammar.

Teacher's Comments:

(Name) ~~XXXXXX~~ you have shown good communication skills, understanding of the book, and ability to structure an essay (I think you ran out of time a bit, though). You really need to focus on checking your grammar and practicing spelling, however, because when you go into higher grades, you will need to use more complex language and give more details to do tasks in all your IB classes.

Still, this was a good essay... nice job!



Approaches To Learningの重視と評価

1. コミュニケーションスキル

- 相互作用を通して思考やメッセージ、情報を効果的にやりとりする。
- 情報を集め、やり取りするために言語を読み、書き、そして用いる。

2. 社会性（協働スキル）：他者とともに効果的に取り組む

3. 自己管理

- 整理整頓スキル： 時間と課題を効果的に管理する。
- 情動スキル： 心理状態の管理。
- 振り返りスキル： 学習プロセスを（再）検討する。

4. リサーチ

- 情報リテラシー： 情報を見つけ、解釈し判断し創造する。
- メディアリテラシー： 考えや情報を用い、創造するためにメディアと付き合う。

5. 思考

- 批判的思考スキル： 論点や考えを分析し、評価する。
- 創造的思考スキル： 今までにないアイデアを生み出し、新しいものの見方を検討する。
- 転移スキル： スキルと知識を多角的な文脈において用いる。

コミュニケーション

I. コミュニケーションスキル

相互作用を通して生徒はどのようにコミュニケーションをとることができるのか？

相互作用を通して思考やメッセージ、情報を効果的にやりとりする。

- ・ 意味のあるフィードバックを与え、受け取る。
- ・ コミュニケーションを解釈する際に多様な文化の理解を用いる。
- ・ さまざまな受け手とのコミュニケーションに必要な多様な会話テクニックを用いる。
- ・ 異なる目的や受け手に応じて適切な記述形式を用いる。
- ・ さまざまな受け手とコミュニケーションをとるために、多様なメディアを用いる。
- ・ 言葉によらないコミュニケーションの方法を解釈し効果的に用いる。
- ・ 他の生徒や教師と考えや知識について話し合う。
- ・ デジタルソーシャルメディアネットワークに参加し、貢献する。
- ・ 多様なデジタル環境やデジタルメディアを用いて、他の生徒や専門家と協働する。
- ・ 多様なデジタル環境とデジタルメディアを用いて、多数の受け手と考えを共有する。

(「MYP:原則から実践へ」
IBO P.115)

指導と学習の方法・振り返りのツール (自己管理スキル)

	ほぼ毎回	過半数の授業で	必要に応じてたまに	本単元ではなし	わからない
提出期限を設定しましたか？					
以前に提出した課題を見直し、改善するように生徒を促しましたか？					
各自の学習目標を立てるように生徒を促しましたか？					
大きな課題は細かい段階に分けて取り組むよう指導しましたか？					
テーマやトピックの中に自分への関連性を見いだすように生徒を促しましたか？					
集中力を高める練習や、その方法について話し合いましたか？					
課題へのアプローチについて生徒にフィードバックを提供しましたか？					
期限を守り、タスクを管理するための実践的なスキルや行動をモデル化しましたか？					
失敗や間違いから学べるよう生徒をサポートしましたか？					
「初めからうまくやらなければならない」と生徒が感じなくても済むような雰囲気づくりをしましたか？					
試験に向けた復習計画と復習方法について話し合いましたか？					

(IBO ディプロマプログラムの「指導」と「学習」の方法：振り返りのツール)

9年 言語と文学 / Japanese A

教科ごとの成績表例

単元・課題 Criteria・基準	メディア社会 小論文	メディア社会 ポスターラショナル	戦争と文学 創作詩とラショナル	期末試験 読解、論述、漢字	個人と文学 高瀬舟グループ発表	個人と文学 高瀬舟コメンタリー	記述課題 語事項テスト	古典文学と創作 我輩は猫であるグループ発表	期末試験 読解、論述、漢字	総合
A 分析 0-8		4	5		5	6		6	7	6
B 構成 0-8	6		7	5	5			6	8	7
C 作文 0-8	6	6			5	5				5
D 言語の使用 0-8	6	7	4	5	5		3		6	5
									Total	23

Approaches To Learning / 学習の姿勢

I. Communication / コミュニケーション	Meeting Expectations / 期待値を満たしている
II. Social / 社会性	Approaching Expectations / 期待値に近づいている
III. Self-management / 自己管理	Meeting Expectations / 期待値を満たしている
IV. Research / リサーチ	Meeting Expectations / 期待値を満たしている
V. Thinking / 思考	Meeting Expectations / 期待値を満たしている

教科担当者のコメント

評価の客観性を保つために

- ◆各教科、観点別に評価規準と基準のルーブリックが示されている。
- ◆同じ教科の指導を複数の教師が担当している場合、課題の評価をする前に、校内での標準化のプロセスを実施しなければならない。
 - ▶例えば記述式のテストを実施した場合、同じ教科を担当する教員が集まり、氏名を伏せた答案をランダムに数人分持ち寄って採点し合い、採点基準の目合わせをする。
- ◆外部評価・認証の活用（DP試験、TOK評価、MYPパーソナルプロジェクト等）
- ◆指示用語の意味の明確化と共有

MYP指示用語 / 課題の意味の明確化

- 比較しなさい→2つ（またはそれ以上）の事柄または状況の類似点について、常に双方（またはすべて）について言及しながら、説明しなさい。

分析しなさい 注釈しなさい 応用しなさい 計算しなさい 分類しなさい
コメントしなさい 比較しなさい 対比しなさい 作成しなさい つくりな
さい 批評しなさい 推論しなさい 定義しなさい 論証しなさい 導き出
しなさい 詳しく述べなさい 設計しなさい 決定しなさい 発展させな
さい 論じなさい 区別しなさい 記録しなさい 描きなさい・図示しなさい
推定・概算しなさい 評価しなさい 考察しなさい 説明しなさい 探究し
なさい 求めなさい 定式化しなさい 特定しなさい 解釈しなさい 調べ
なさい 正当化しなさい

他 全53項目について、指示用語の説明が用意されている。